

震災から6年が経過し、土木・建築のハード面としての復興は終盤に差し掛かろうとしています。

会員の皆様に於かれましても、JIAの会員として使命感を持ち、復興支援活動や復興業務に多くの時間とエネルギーを投じていることに対し、敬意と感謝を申し上げます。

復興は、巨大防潮堤に阻まれた海の見えない沿岸部の今後の生活、移転地に於けるコミュニティ・高齢者のケアの問題、さらに、福島原発廃炉と避難地域の復興など、まだまだ、多くの問題を抱えています。私達は、引き続き、被災地に寄り添いながら、これまでに関係を築き上げてきた復興に関わる被災者、市民、支援団体と共に復興活動を進めていかなければならないと考えます。

また、縮小化する社会の中で、人口減少・少子化に伴い、空き家・空き地は東北で大きな問題となりつつあります。この問題を少しでも解消するために、既存ストックの利活用を目指したリノベーションによるまちづくりを進めなければなりません。さらに、各地に残っている歴史的建造物や歴史的遺構の調査・修復・復元・保存再生活用を促し、地方や地域の固有のアイデンティティを共に注出し、歴史・文化の伴った観光資源を整備し、発信力のあるまちづくりを支援したいと考えます。

CO2排出ゼロ社会を目指した「ZEH・ZEB」の建築への取り組み、さらに、木質系新素材CLT等を積極的に取り入れた建築を試み、未来に貢献する「環境と建築」の共生社会づくりを目指すことが必要であると考えます。

最後に、昨年のオリンピック競技場、豊洲市場移転などの問題が多発し、発注者に対し決済の責任、設計者選定、設計者の責任、デザインビルドなど、多くの建築に関わる事項が市民やマスコミに取り沙汰され、私達の職能を改めて自戒する年でもありました。

このような社会状況下の中で、JIAが目指すところの職能（建築家法・建築基本法）の確立と社会・市民から「必要とされる建築家」「信頼される建築家」として認知されるような公益活動をJIA東北支部の会員の皆様と共に推進して行きたいと考えます。

#### 2017年度 主な骨子 「復興からまちづくりへ」

1. 復興災害 被災3県の各地域会の復興支援活動へ引き続き支援すると共に他団体との協同・交流を促進。熊本など他支部への災害支援。  
天災・異常気象による災害に対しての行政や地域コミュニティとの連携を促進します。
2. 地域会 各地域で行われる公益的地域会活動が支部活動の主体であることを定着させ、その活動が円滑に進められるよう支援します。
3. 会員 新たな会員「正会員・準会員（専門会員・シニア会員・ジュニア会員・学生会員）・協力会員」の入会促進と正会員の「登録建築家」への登録を誘導します。
4. 事業 第11回東北住宅大賞の開催、第21回東北建築学生賞の開催。  
空き地空き家リノベーションコンペの企画開催。  
歴史的建造物や歴史的遺構を調査・修復・復元・保存再生活用するなどのまちづくりを支援します。
5. 大会 JIA 建築家大会（四国全国大会）や UIA ソウル世界建築家大会への参加を推進します。
6. 会員交流 台湾建築家協会、北海道支部等と交流を深め、会員間の交流促進を計ります。
7. 行政他団体 東北公共建築設計懇談会・建築設計関連団体サミットや他の会議体を通して、行政・事務所協会・士会・学会・建設業協会等との協力・連携を強化し、行政への業務改善やまちづくりに対しての要望などを展開します。